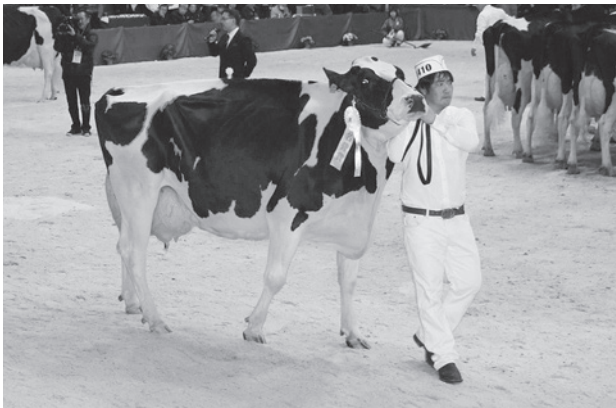


酪農王国十勝4部門制す



全国1位の乳牛「レデスマナー MB セレブリティ」と天野さん(右)

【胆振管内安平町】乳牛改良の成果を競う第14回全日本ホルスタイン共進会(23～26日、道ホルスタイン共進会場)で25日、更別村の酪農家天野洋一さん(40)の出品牛が全体の第1位の最高位賞に輝いた。各部門1位に当たる「名誉賞」は9部門中4つを十勝勢が制し、酪農王国の本領を発揮した。

全共は5年に1度開かれ、乳器や体格、肢蹄(してい)など乳牛としての資質を競う。前回は口蹄(こうて

い)疫などで中止だったため、今回は10年ぶりで、北海道開催は初めて。

審査は24、25の両日に行われ、全国の予選を勝ち抜いた380頭、道内68頭(うち十勝26頭)が月齢や品種など18部門に分かれて出場した。

最高位賞は第12回から設けられた賞で、十勝からの受賞は初めて。天野さんの出品牛「レデスマナー MB セレブリティ」は、最も月齢が高い第14部(6歳以上)で1位、9部門の1位から選ばれる最高位賞を獲得。審査委員から「成牛らしい力強さがある」と評価された。

更別村で約110頭を飼う天野さんは「うれしいの一言。道(予選)では3位だったが、牛の最高の状態を引き出そうとベストを尽くした」と喜ぶ。環太平洋連携協定(TPP)など「不安もある中だが、若い人が楽しみを持って酪農をできるよう、これからも頑張りたい」と話した。

この他、十勝から名誉賞を獲得したのは経産2～3歳で清水町の田中牧場(8部)、国産種牛限定で子の成績を調べる後代検定の未經産部門で広尾町の佐藤孝一さん(1部)、ジャージー種の未經産で大樹町の松本牧場(16部)。十勝の生産者が精魂込めて育てた多くの牛が好成績を挙げ、国内の酪農をけん引する十勝を印象付けた。

大会は26日に閉会式などが行われ、閉幕する。

農業ガイド1041号

2016年1月23日

生乳4.4%増 十勝 全道けん引 ホクレン4～12月の受託量

ホクレン支所別 生乳受託量		
2015年度第3四半期まで(4～12月)		
支所 (地区)	生乳受託量 (トン)	前年度 比(%)
帯広 (十勝)	84万7940	104.4
中標津	59万0692	100.6
北見	42万2360	100.6
釧路	39万9703	102.4
稚内	21万3127	101.2
旭川	12万5036	97.6
留萌	7万8310	97.5
苫小牧	6万5777	100.6
函館	5万6694	98.5
倶知安	1万7426	99.2
札幌	1万7177	100.4
岩見沢	1万5648	97.7
合計	284万9890	101.7

ホクレンの2015年度第1～3四半期(4～12月)の生乳受託量のうち、帯広支所(十勝管内)は前年度同期と比べて4.4%増加した。道内最大の産地の十勝が全12支所で最大の伸び率を維持しており、全道の伸び率をけん引している。

今年度上半期(4～9月)の十勝の伸び率は4.3%だった。昨年度は前年の飼料の不作などが乳量に響いたが、今年度は良質な飼料が確保できていることから1頭当たりの乳量が順調に伸びている。十勝では大規模経営の法人が新規に立ち上がっていることや既存法人の増頭で規模を拡大していることが、乳量増加につながっている。

十勝の全24JAのうち20JAが前年同期比を上回った。特に乳量が多いJA十勝清水町、鹿追町、上士幌町の3JAの伸び率は十勝全体の伸び率を上回る5～10.8%となった。

十勝の14年度の生乳受託量は上半期に苦戦したが下半期に伸ばして過去最高となる108万6334トン記録。15年度はこれを上回るペースとなっている。